

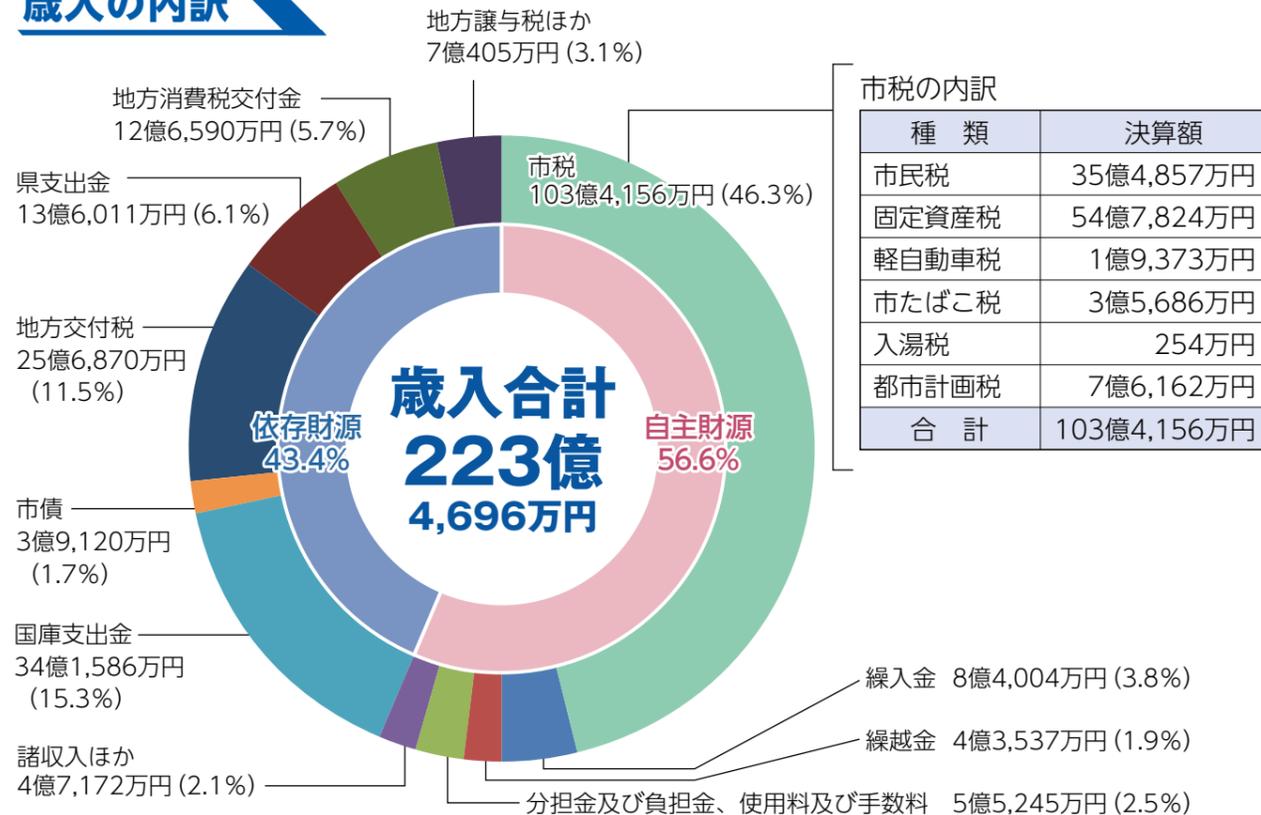
令和5年度 決算

令和5年度の一般会計、特別会計、企業会計の決算が、市議会で認定されました。

令和5年度は、第2次総合計画後期基本計画の2年目として、長期化したコロナ禍や緊迫の国際社会情勢を踏まえつつ、「行政経営の重点方針」に基づき、コロナ禍を乗り越え、まちの活力を高めながら、健康都市の形成につながる取り組みを進めました。

「令和5年度つうしんぼ」では、皆さんに納めていただいた税金や国・県支出金がいくらで、どのように使われたのか、また市の財政状況はどうなっているのか、詳しくお伝えします。

歳入の内訳



歳入は、前年度より約24億3千万円減少し、223億4,696万円となりました。地方財政の自主性を確保する自主財源は、市税収入が約2億円、諸収入が約5千万円の増となった一方、前年度繰越金が約2億3千万円の減となったことなどにより、前年度より約7千万円減少し、構成比は歳入全体の56.6パーセントとなりました。依存財源については、令和4年度に完了した大型ハード事業の国庫支出金が約12億9千万円の減となったほか、市債が約13億7千万円の減となったことで、前年度より約23億6千万円減少し、構成比は歳入全体の43.4パーセントとなりました。

●歳入額を市民1人あたりに換算すると 45万4,419円



※市民1人当たりの歳入および歳出額は、令和6年4月1日現在の人口（49,177人）で計算しています。

一般会計

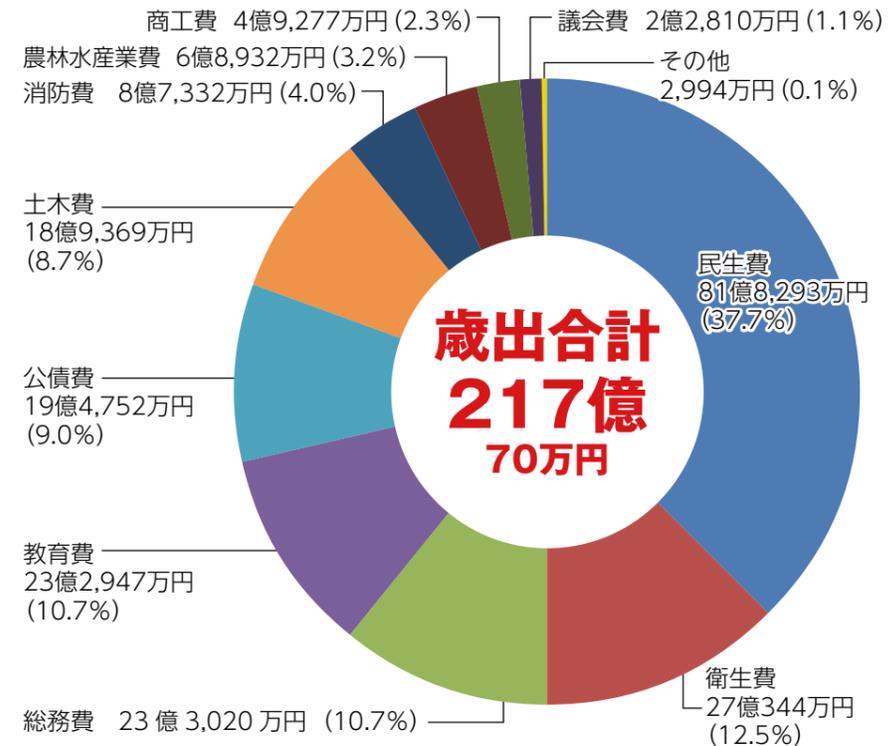
一般会計の歳入は223億4,696万円、歳出は217億70万円、歳入歳出差引額は6億4,626万円となり、翌年度に繰り越す財源を控除した実質収支額は6億2,830万円の黒字となりました。

歳入決算額 223億4,696万円
(対前年度比 約24億2,947万円の減)

歳出決算額 217億70万円
(対前年度比 約22億9,036万円の減)

実質収支額 6億2,830万円

歳出の内訳(目的別)



- ### 用語の解説
- 民生費…各種福祉事業に使った費用
 - 教育費…学校教育や社会教育などに使った費用
 - 土木費…道路やまちづくりなどに使った費用
 - 総務費…地域振興や一般事務などに使った費用
 - 衛生費…市民の健康管理やごみ処理に使った費用
 - 公債費…借入金返済や利子支払いに使った費用
 - 消防費…消防施設や消防団運営に使った費用
 - 農林水産業費…農業や林業の振興に使った費用
 - 商工費…観光や商工業の振興に使った費用
 - 議会費…市議会の運営に使った費用
 - その他…勤労者の支援、災害復旧などに使った費用

歳出は、前年度より約22億9千万円減少し、217億70万円となりました。目的別でみると、民生費は住民税非課税世帯重点支援給付金給付事業、生活応援給付事業のほか、自立支援事業の増などにより約4億6千万円の増、総務費は地区コミュニティセンター充実事業の増などにより約1億6千万円の増となりました。一方で、土木費は亀山駅周辺整備事業の完了により約17億1千万円の減、教育費は図書館整備事業の完了により約8億6千万円の減、商工費は経済支援対策事業の減により約2億5千万円の減となりました。

●歳出額を市民1人あたりに換算すると 44万1,277円

